

2025年4月28日、共同通信により、障害年金の不支給が前年度の2倍に増えたことが報道されました。

## 【独自】障害年金、不支給が倍増3万人に 24年度、幹部交代で厳格化か

4/28(月) 21:00 配信 4755



勝俣範之さんが推薦中



日本年金機構の障害年金センター = 11日、東京都新宿区

障害者に支給される国の障害年金を申請して2024年度に不支給と判定された人が、23年度の2倍以上に急増し約3万人に上ることが28日、共同通信が入手した日本年金機構の内部資料で分かった。機構が統計を取り始めた19年度以降で最多。審査された6人に1人程度が不支給になった計算で、割合も前年度の約2倍に増え、過去最大となる見通し。

【グラフ】障害年金不支給割合の変化

報道を受け、日本年金機構は障害年金の認定をひそかに再認定しました。

## 報道受け障害年金ひそかに再判定 年金機構、不支給の千件超

5/25(日) 21:00 配信 481



日本年金機構の障害年金センター＝4月、東京都新宿区

国の障害年金を不支給とされた人が2024年度に増えた問題を巡り、日本年金機構が検証のため、不支給と判定したうち千数百件について内部でひそかに判定をやり直していたことが25日、関係者への取材で分かった。通常、再判定することはなく、異例の措置。

【グラフ】障害年金不支給割合の変化 24年以降で増

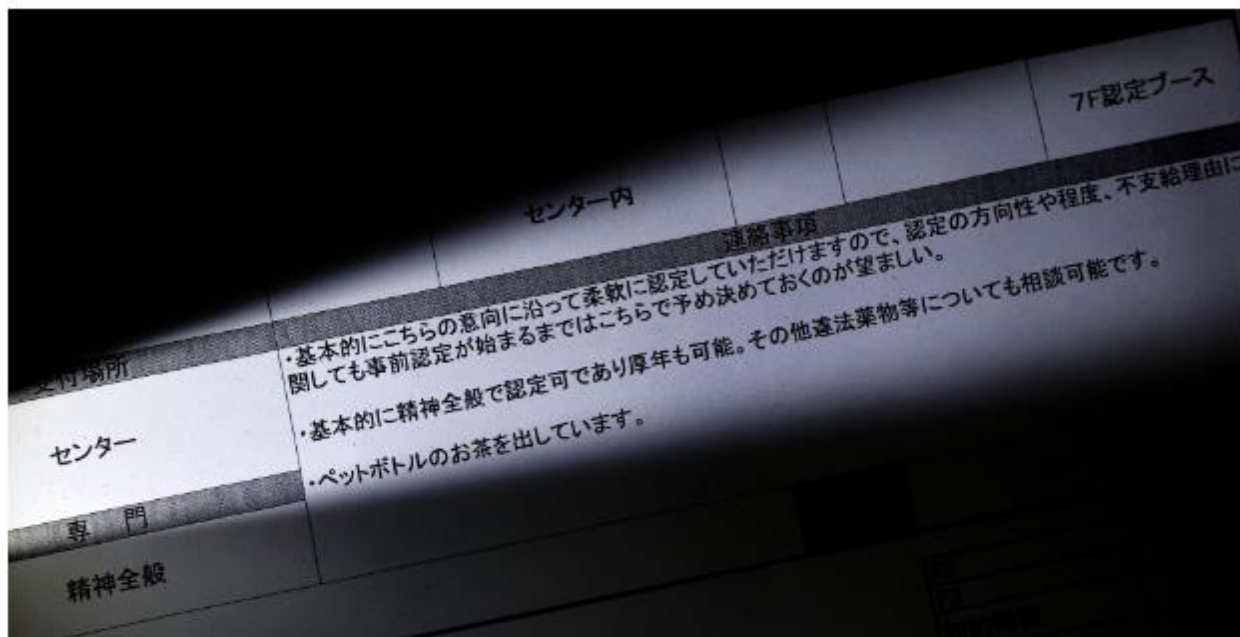
年金機構は取材に対し「そうした事実はない」と否定しているが、共同通信は再判定を行っていることを示す内部文書を確認した。職員からは「機構の回答は虚偽だ」との声が出ている。

日本年金機構は「再認定の事実はない」と否定していましたが、内部の職員から「機構の回答は虚偽だ」との証言が出ました。障害者の権利である障害年金は、生きる上で欠かせません。支給されるかどうかは障害者の命に直結します。障害年金が支給されなかったことで自ら命を絶つ者もいます。そのような現状を知ってか知らずか、障害者が置かれた現状を理解しようとせず、息をするように平気で嘘をつく日本年金機構。

嘘をつくだけでは飽き足らず、医師資格を持たない機構職員が「前さばき」をして医師に指示している現状まで明らかになりました。

障害者の人生を狂わせておいて、「回答を差し控える」というどういうことか。

## 【独自】障害年金判定、判断誘導の可能性 機構、医師の傾向と対策文書作成



日本年金機構の障害年金センターが、ある精神科の判定医について作成した文書



2025年04月29日 23時19分 ● 共同通信

障害者に支給される国の障害年金を巡り、審査の実務を担う日本年金機構の職員側が、支給の可否などの判定を委託している医師の一部に対し、支給を絞る方向で判断を誘導している可能性があることが内部文書や職員の証言で29日、分かった。

機構は首都圏の判定医140人それぞれについて、傾向と対策のような文書を内部で作成。「こちら（職員側）であらかじめ（判定を）決めておく」などと書いている。医師によって判断にばらつきがあると認識していることも判明。職員の裁量や、どの判定医に書類が回るかによって支給の可否や金額が左右されることになる。

内部文書について年金機構は取材に対し「判定医に関する情報や取り扱いについては、回答を差し控える」としている。

内部文書に書かれている内容

- 基本的にこちらの意向に沿って柔軟に認定していただけますので、認定の方向性や程度、不支給理由に関しても事前認定が始まるまではこちらで予め決めておくのが望ましい。
- 基本的に精神全般で認定可であり厚年も可能。その他違法薬物等についても相談可能です。
- ペットボトルのお茶を出しています。